

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
看護形態機能学Ⅰ	1年次 前期	必修	講義	2単位（30時間）	小林 大輔 ※
授 業 概 要					
日々営まれる日常生活行動の視点から、からだの構造と機能を学習する。形態機能学Ⅰでは、からだは何から作られているのか、生命維持に必要な恒常性と調節の仕組みについて学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 日常生活行動を支える「恒常性」の維持に必要なからだの仕組みを理解する。 2. ストレッサーが恒常性維持の仕組みにどのように影響するか理解する。					
実務経験のある教員					
小林 大輔：看護師の実務経験をふまえて恒常性維持のための形態機能について教授する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-15	1. 看護形態機能学 カリキュラムと科目の関連性 本科目の概要と学習の進め方 2. 内部環境の恒常性 1) 体液の分類と量            2) 体液の電解質 3) 血漿のpH                4) 動脈血酸素分圧 5) 血漿の糖分               6) 体温 3. 生命維持と生活行動 4. 恒常性維持のための流通媒体 1) 血液の恒常性維持    2) 物質の運搬 3) 侵入物に対する防衛   4) 血液凝固 5. 恒常性維持のための調節機構 1) 神経調節 ①受容器    ②中枢神経    ③末梢神経 2) 液性調節 ①ホルモンの作用機序と分泌の調節 ②恒常性維持のためのホルモンの働き 3) ストレスと恒常性維持 6. 恒常性維持のための流通路 1) 血管・リンパ管        2) 脾臓 7. 流通の原動力 1) 心臓                        2) 血圧 3) 血圧の調節				小林 大輔 ※
学 習 方 法					
講義 課題学習 グループワーク					
評 価 方 法					
科目修了試験 課題学習					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 坂井健雄 他著 医学書院					